



< 講座報告 >

**F Wordでつくる「こどもが～」をめざして 高槻市立竹の内小学校 田村真一先生**

田村先生が日々の教材準備において、これまで試行錯誤を重ねて作成されたWordによる支援のツールや教材を紹介くださるという研修内容でした。

①子どもたちのこと

「させる」ではなく、「する」ことを目標にしている。子どもの「やりたいけどでけへんねん。」という気持ちを大切にし、二十歳（大人）の生活と生きるために必要な力を思い描きながら支援に努めている。

②言葉のこと

子どもの目の高さになることが大切である。

③大切にしていること

『子どもが、「する」をめざしたい。』『子どもが、「できた」をめざしたい。』『子どもが、「よかった」をめざしたい。』

常に子どもを見て、感じることから出発している。子どもの思いや願いを受け止め、子どもからのフィードバックを活かしている。

④支援のためのファイルのこと

『自分で理解してできること』『見通しをもって安心して過ごせること』『みんなとできること』

基本形を大切にし、将来、自分で自分を支援できることを念頭に置いている。

(例) 予定表、避難訓練の動き方、予定表のケース、予定表のサイズ、週予定表

通常の学級の1日の時間割

⑤教材や授業で使うファイルのこと

『より身近で、イメージしやすい』『将来役に立つ』『楽しみながらできること』『気づけば、学びにつながっていること』『子どもの自己有用感を高める』

教材や授業で使うファイルは、「できる」「わかる」「できた」をめざして作成している。

(例) 視写プリント

田村先生からは、「答えは子どもにあり。ヒントは、子どもと自分にある。」との言葉をいただきました。常に子どもを中心に考えて、子ども自身が「できた」「よかった」と感じられる、子どもの思いと願いを大切にできる教材を、私たちが作っていきたいと思います。